

# 岩手農大 同窓会会報

題字は伊藤会長

第 18 号  
平成 23 年 3 月 1 日

発行・編集

岩手県立農業大学校同窓会  
岩手県胆沢郡金ヶ崎町蟹子沢14 TEL0197-43-2211



## 農業大学校創立30周年を迎えて

岩手県立農業大学校同窓会

会 長 伊 藤 寛

早春の折、同窓会会員の皆様にはご健勝のことと心からお慶び申し上げます。

このたび同窓会報第18号を「農大創立30周年記念特集号」として発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

本校は昭和56年4月、当時県内3ヶ所にあった農業教育施設の統合により、金ヶ崎町六原の地に「岩手県立農業短期大学校」として開校以来30周年を迎えることとなりました。その間、卒業された皆さんは、県の内外において各分野で活躍されていることはご承知のとおりであります。

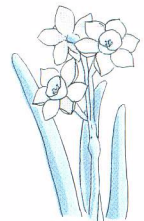
同窓会としまして、今回の30周年にあたり、何らかの記念事業を実施すべく、役員会等で協議した結果、特別な祝賀行事はしないで、記念誌の発行と、学校行事への支援をすることにいたしました。

学校行事に対する支援事業としては、毎年開催している「農大祭」に記念特別ス

テージとして本校同窓生である漆原栄美子さんと村松耕一さんの出演をお願いし「民謡ショー」を提供しました。また、11月には、県内で活躍している同窓生をパネラーに迎えて「創立30周年記念農業創造シンポジウム」の後援と「同窓会交流会」の開催、学生自治会との合同で「校旗」を新調して学校に贈呈、等々の支援事業を実施することができました。

そして昨年12月には、農大職員によって編集された「創立30周年記念誌」を同窓会で印刷発行し、各関係機関、同窓会支部並びに在校生に配布することができました。詳細は「会報」の記事の中でお知らせしております。

会員各位のより一層のご協力とご理解をお願いし、皆様の益々のご健勝を祈念して会報発行にあたってのご挨拶といたします。





同窓会会報に寄せて

## ～ 期すること ～

岩手県立農業大学校

校長 川 嶋 明 澄

昨年夏の観測史上最高の猛暑にくわえ、この冬は予報を覆す寒波と大雪に見舞われ、今更ながら自然の力の偉大さを思わざるを得ない一年だったと感じ入っております。

本年度は、新制農大30周年を迎え、農大祭、農業創造シンポジウムに多くの同窓生の皆様をお迎えし、学生諸君の積極的な取組みと相まって大変充実した記念すべき年を送ることができました。

同窓会の皆様には、学生のカリフォルニア州立大学デービス校での研修を始め、本校の教育活動全般に対しまして、物心両面で多大なご支援をいただいております。こころ温まるご配慮に対しましてこの紙幅をお借りしまして衷心より感謝申し上げます。

今年度も卒業生を送り出す時期となり、これまでのところ（2月初旬現在）、自家や農業法人などへの就農、本校研究科、岩手大学への編入学やヨーロッパでの専門研修などの進学、農協などの農業団体、市町村役場、農業関連企業

への進路・就職内定の嬉しい報告を日々受けておりますが、超氷河期とも言われる昨今の就職難で、未だに10名程度（全体の2割弱）学生の進路が決まっていない状況となっております。

進路指導担当職員を始め担任、各教授や私を含めて、県内の農業法人、農業関係企業等を訪問させていただき、学生諸君の進路決定にご高配をお願いしてきておりますが、昨今の経済情勢のなかにあつて、学生の一層の資質向上や目的意識の明確化などに関し、厳しくも温かいご助言をいただいております。

先輩諸氏が築いてこられた伝統のなかで、「北の六原」と全国的にも評された輝かしい歴史に恥じることなく、本県における農業・農村の担い手育成の中核機関として、教職員一丸となって更に精進して参ることとしております。

同窓会会員の皆様のご多幸をお祈りし、本校の教育活動に更なるご理解とご支援賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

### ◆ 支部便り ◆

#### 紫波支部

支部長が菅原さんから阿部さんに替わりました

紫波支部  
事務局 橋 本 信 一

当支部は、紫波町と矢巾町の2町だけの小さい範囲ですが、それぞれ紫波町分会と矢巾町分会を組織しています。

分会では、旧町村毎に会員数15～20名単位に分会幹事1名を選出しています。分会幹事は両分会併せて50数名で、会の運営・会員の情報収集・伝達などの役割を分担しています。さらに、役員として支部幹事と支部代議員を選出しています。

分会の活動としては、矢巾町分会では総会を6月20日に開催しましたが、総会前の研修では、「みかみ農園彩り苺館」と「フォレスト百万石」の大型施設栽培2箇所を見学しました。

紫波支部としては、支部役員は、支部幹事会で選

出し、1年おきに開催する支部総会の承認を得ることにしています。

紫波支部の総会は、7月3日に開催され、役員改選の結果、支部長が矢巾町分会の菅原博さんから紫波町分会の阿部時男さんに交替しました。



支部長 阿部時男氏

取り組んでいる事業は、名簿作成と研修です。名簿作成は、本部発行の名簿をもとに分会毎に整理して平成16年度に完成し会員に配布しました。その後の異動も逐次分会幹事を通して情報収集して削除・加筆され、

最新版を会員に提供しています。

研修は、総会当日の会議開催前に実施しています。

支部の運営費は、行事参加者からの会費と、本部からの支部活動費で賄われており、財源不足が最大の悩みです。

これからの課題としては、同窓会の目的を達成するための活動を保証する財源の確保と事業の拡大です。

今後、本部からの支援に過度に依存せず、会費の定額徴収制の導入と活動拡大の具体化として新規会員の歓迎会を検討中で、知恵を出し合いながら進めていきたいと考えています。

## < 創立30周年記念事業の報告 >

今年度は、昭和56年4月に農業短期大学校、営農大学校、蚕業講習所等県内の農業研修施設を統合し、新制農業短期大学校が発足してから30周年を迎えた年でした。

### 1 取り組みの経過

同窓会としては、記念事業の取り組みについて平成21年度の第2回役員会（10月31日開催）で基本方向を学校長と協議しました。

当時の伊五沢校長から、学校としては特別な記念行事は実施しないが、学校の記録としての「30周年記念誌」は作成するとの方針が示されました。

同窓会としては、20周年時のような盛大な取り組みはできないので、積み立てている資金の範囲内で記念誌の発行を支援することとしました。また、学校行事の中で30周年記念として位置づけられるものについては支援をするので、学校としてもできるだけ30周年をアピールしてほしいとの要望を出しました。

平成22年度に入り、4月22日に開催された総会で、実施する方針と積立金の利用について決定し、具体的な取り組みについては役員会に委ねることになりました。

6月29日に開催された第2回役員会で、学校行事への具体的な支援内容と予算について次のとおり決定しました。

#### ① 30周年記念誌の発行・配布

#### ② 30周年記念事業として支援する行事

ア 農大祭（10月）

イ 農業創造シンポジウム（11月）

#### ③ 同窓会独自で取り組む事業

ウ 交流会の開催

エ 校旗の作成

#### ④ 予 算（積立金 104万円）

（内訳）

ア 記念誌発行 60万円

イ 農大祭支援 10万円

ウ 農業創造シンポジウム 9万円

エ 校旗作成 25万円

### 2 30周年記念事業の内容

#### ① 30周年記念誌の発行

平成22年1月8日に、学校の情報委員会が藤本教育部長を編集委員長にして30周年記念誌編集委員会を立ち上げました。

その後、8月までに8回の編集委員会を重ねて、11月22日に「岩手県立農業大学校の歩み」を発行し、同窓会の各支部をはじめ県内の関係機関等に配布しました。

#### ② 農大祭の支援

10月30日（土）～31日（日）に開催された毎年恒例の農大祭を、学生の実行委員会が今年は創立30周年記念農大祭として位置づけ、ポスターや看板に掲示しました。

また、同窓会のイベントとして「30周年記念特別ステージ」として、同窓生である漆原栄美子さんの民謡ショーを30日の午後で開催しま



した。三味線の村松耕一さんも同窓生です。当日は、地域の皆さんが多数来場され大好評でした。

③ 30周年記念農業創造シンポジウム

11月26日(金)の午後に「地域の食文化再発見」というテーマで開催しました。

県内の特産品を広く県内外に情報発信している「賢治の土」の代表畠山武志氏の講演の後、地域で活躍している同窓生3人をパネラーとしてパネルディスカッションが行われました。



<パネラーの紹介>

- ・細川 栄子さん(紫波町)
- ・岩崎 隆さん(盛岡市玉山区)

・晴山 英俊さん(雫石町)

④ 交流会の開催

農業創造シンポジウム終了後に、農業研修館で同窓会の交流会が実施されました。

支部役員を中心に6名と少ない参加者でしたが、川嶋校長はじめ学校関係者と泊まりがけでの濃密な交流会となりました。

⑤ 校旗の作成・贈呈

6月の役員会で、校旗が色あせてみすぼらしくなっていたため、同窓会として平成22年度卒業生の卒業記念品と合同で校旗を新調して贈呈することにしました。新調した校旗は、11月26日のシンポジウム開催前に贈呈式を行い、伊藤会長と学生自治会の小松副会長から川嶋校長に引き渡されました。

平成22年度岩手県立農業大学校同窓会総会報告(抜粋)

開催日 ■平成22年4月22日(木) 開催場所 ■農大国際交流館中会議室

1. 平成22年度事業計画・実績

- 支部活動の促進
- 同窓会会員台帳の整備
- 同窓会会報の発行 平成23年3月上旬 1,000部
- 農業大学校卒業生(直近5年間)交流への支援
- 農業大学校事業支援
  - 農大祭への支援 平成22年10月30日(土)~31日(日)
  - 農業創造シンポジウムへの支援 平成22年11月26日(金)
  - 本科2年生52名の海外派遣研修支援 平成22年8月23日(月)~30日(月) アメリカ合衆国カリフォルニア州
  - 高校生対象の「緑の学園」事業支援
    - 第1期 平成22年7月28日(水)~29日(木) 19校39名参加
    - 第2期 平成22年7月30日(金)18校28名参加
- 農業大学校同窓会全国連盟及び東日本農業大学校同窓会連盟への参加
  - 全国連盟理事会 平成22年5月28日(金) 東京
  - 全国連盟総会 平成22年7月14日(水) 東京
  - 東日本連盟総会 平成22年6月10日(木)~11日(金) 岩手県
- その他
  - 平成22年度入学式 平成22年4月8日(木)
  - 平成22年度卒業式 平成23年3月11日(金)
- 役員会・総会
  - 総会及び役員会 4月22日(木)
  - 役員会 6月29日(火)
- 創立30周年記念事業
  - 前述の創立30周年記念事業の報告を参照のこと

同窓会役員名簿(平成21年~22年)

役職	氏名	支部名	役職	氏名	支部名
会長	伊藤 寛	北上	理事	林田 勲	気仙
副会長	菅原 幸明	奥州	〃	菊池 長助	遠野
〃	菊地 政男	宮古	〃	岩城 明久	慈
理事	竹鼻 邦夫	盛岡	〃	中谷 勲	二戸
〃※	阿部 時男	紫波	監事	千田 敏夫	北上
〃※	田村 忠	岩手	〃	及川久仁江	奥州
〃	藤原 勝栄	花巻	事務局長	高橋 栄蔵	奥州
〃	槻山 隆一	関			

※紫波支部と岩手支部の支部長さんが替わりました。

2. 平成22年度収支予算

収入総額 1,126,012円  
支出総額 1,126,012円  
差引残高 0円

1)収入の部

項目	本年度予算額	前年度予算額	差引増減	摘要
1 繰越金	385,612	94,258	291,354	前年度繰越金
2 会費	540,000	540,000	0	会費 54名×10,000円
3 寄付金	0	0	0	
4 雑収入	400	400	0	預金利子等
(緑の学園)	200,000	330,000	△130,000	農業公社より
合計	1,126,012	964,658	161,354	

2)支出の部

項目	本年度予算額	前年度予算額	差引増減	摘要
1 総務費	190,000	120,000	70,000	
1)事務費	30,000	30,000	0	切手・振込手数料
2)会議費	160,000	90,000	70,000	総会、役員会
2 負担金	90,000	85,000	5,000	後援会費 30,000円 全国連盟 55,000円 東日本連盟 5,000円
3 活動費	580,000	710,000	△130,000	
1)支部活動費	90,000	90,000	0	支部当たり8,000円~20,000円以内
2)大会参加費	100,000	100,000	0	全国連盟・東日本連盟総会
3)農大祭支援	30,000	30,000	0	
4)農業創造シンポジウム支援	20,000	20,000	0	
5)卒業生交流等	10,000	10,000	0	
6)会報発行	55,000	55,000	0	同窓会会報
7)海外農業研修支援	70,000	70,000	0	2年生の海外研修支援
8)卒業生表彰	5,000	5,000	0	卒業生表彰(東日本連盟副賞)
(緑の学園)	200,000	330,000	△130,000	
4 積立金	200,000	0	200,000	
5 予備費	66,012	49,658	16,354	
合計	1,126,012	964,658	161,354	

※ 積立金合計額 840,000円(平成12年度~平成20年度)